

役員のための財務税務会社法ニュース

太陽 ASG マネジメントリポート

今回のテーマ： XBRL データの信頼性

EDINET（Electronic Disclosure for Investors’ NETwork）は、金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システムで、開示書類の提出から公衆縦覧までが電子化されています。

有価証券報告書等の提出は電子データで行うことが義務づけられており、2008 年 4 月以降は、財務諸表部分については XBRL 形式、それ以外の部分は HTML 形式での提出となっています。EDINET へのアクセスは、現在月平均 700 万件を超えているようで、電子化による利便性向上の結果といえるでしょう。

XBRL データのメリット

XBRL は拡張可能な事業報告用言語（eXtensible Business Reporting Language）といわれるコンピュータ言語（データ記述言語）で、財務情報等を効率的に作成・流通・利用できるように国際的に標準化されています。

有価証券報告書等が紙媒体から電子データになって、印刷費用等のコスト削減とインターネットを通じた迅速かつ公平な情報アクセスが実現することになりましたが、XBRL データは表計算ソフトや財務分析ソフトで直接利用することができるため、入力作業等の手間が省略でき、多くの会社の財務諸表を迅速に比較分析することが容易になっています。

XBRL データのデメリット

有価証券報告書等の財務諸表については、公認会計士の監査証明が付されていますが、EDINET で入手できる XBRL データについては監査対象外であるため、表示されている財務諸表が正しくても、XBRL データ自体が表計算ソフト等で適切に処理できるかどうかについては保証がありません。

EDINET で見ることでできる監査報告書の写し欄外に、財務諸表の範囲に XBRL データ自体は含まれていない旨の注意喚起が記載されているのはこのためです。

提出会社はディスクロージャー支援会社が提供する XBRL ツールを利用してデータを作成しており、一定のチェック機能を備えていますが、すべてのエラーを検出できるわけではなく、とくに勘定科目の選定等、会計上の判断に関するエラーに対しては有効でない場合が多いとされています。

実際に誤りの事例も報告されているため、財務分析の判断を誤る可能性が否定できません。

お見逃しなく！

- 金融庁では EDINET の高度化に関する協議会実務者検討会が開催されており、国際水準を踏まえた XBRL の対象範囲の拡大（有価証券報告書等の全体の XBRL 化など）や投資家等向けの検索・分析機能の向上等の開発が行われており、XBRL データの信頼性についても検討課題と認識されています。
- 2011 年 7 月 11 日には日本公認会計士協会から IT 委員会研究報告「XBRL データに対する合意された手続」（公開草案）が公表されており、今後、世界的に利用が拡大すると期待される XBRL データの信頼性を確保する取り組みの一つとして検討されています。